



インパクト
コンソーシアム

第1回 データ・指標分科会資料

(2026年10月2日 10:00-12:00)

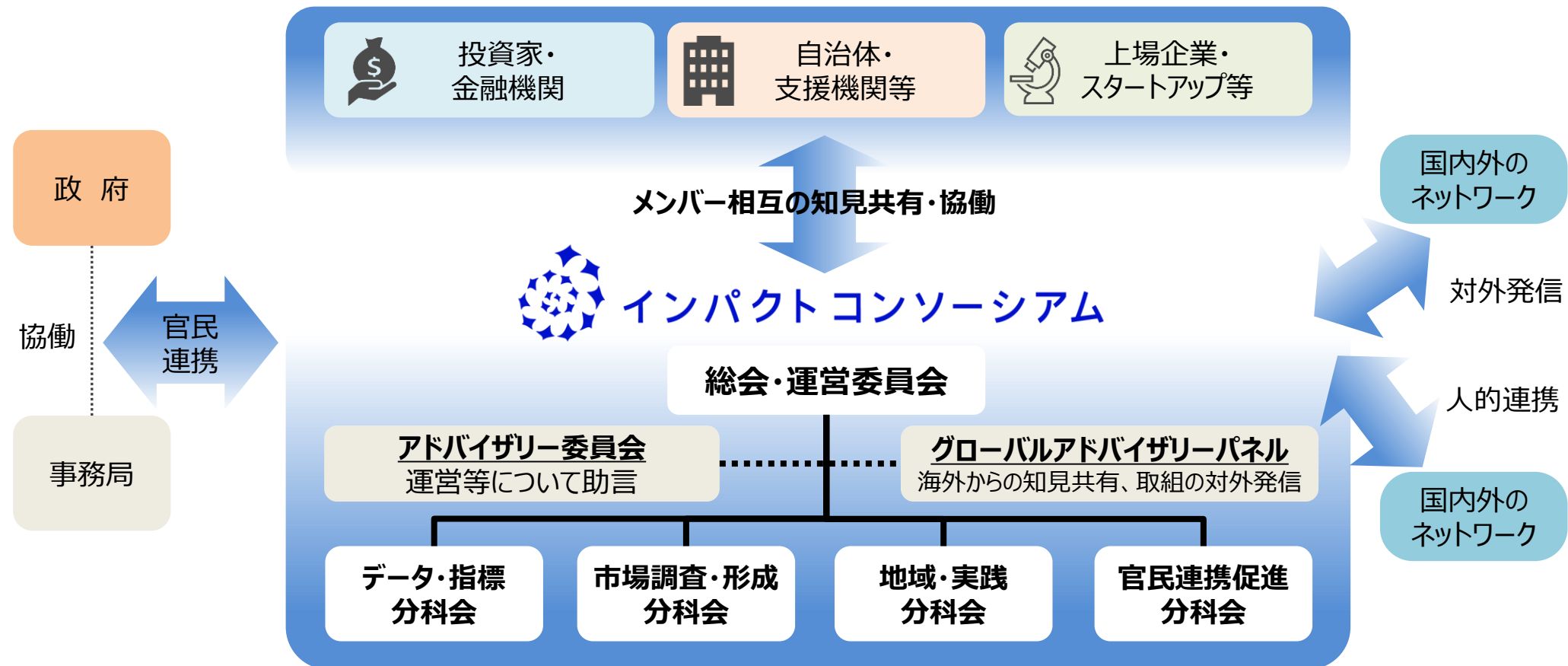
1. 開会
2. 事務局説明
3. 座長・副座長・ディスカッションメンバーのご紹介
4. 座長説明（第3期分科会の進め方）
5. ディスカッションメンバーによる取組紹介
 - 5－1 日清食品ホールディングス【人材・働き方】
 - 5－2 A N Aホールディングス【人材・働き方】
 - 5－3 農林中央金庫【食料・農業】
6. 事務局連絡／閉会

1. 開会

2. 事務局説明

インパクトコンソーシアム 概要

- **インパクトの創出を図る投融資を有力な手法・市場として確立し、事業を推進していくため、投資家・金融機関、企業、NPO、自治体等の幅広い関係者が協働・対話を図る場**として、23年11月、官民連携の「**インパクトコンソーシアム**」を設置
- 運営については、官民連携の場として政府から支援を行いつつ、参加者の自主的な課題設定・議論を旨とし、投資指標や事例、対話・支援手法等の産金間の実践上の知見・課題の収集・発信を中心としつつ、インパクト実現の取組支援につながる幅広い事項に係る議論を行う。また、必要に応じ、政策発信を含む対外メッセージの発信等を検討していく。



第3期スケジュールのイメージ

- 第3期では、インパクト特定・測定・管理プロセスのうち、事業者の計画段階に対するプロセスへの支援として、**インパクト指標集の充実**や**インパクト・パスウェイ（ロジックモデル）の構築に資する実証事業**に関わる議論を進める方向
- **インパクトの可視化と経済的価値の関連性**に関わる議論についても、状況に応じて他分科会とも連携のうえ実施

年間イメージ

※あくまでイメージであり、状況を見ながら柔軟に調整

		2026						2027					
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
総会													
運営委員会等		<div>キックオフ</div> <div>報告</div>											
分科会	データ・指標	<div>「インパクト指標集」の充実、インパクト・パスウェイ（ロジックモデル）の構築に資する実証事業、及び、インパクトの可視化と経済的価値の関連性に関わる議論</div>											
	市場調査・形成	<div>合同分科会を実施予定</div> <div>インパクトと企業価値の接続・企業経営への組み込みの実践例、インパクト投資市場の拡大に向けた議論、システムチェンジ投資の実践的アプローチ</div>											
	地域・実践	<div>事例集の普及活動を通じて、地域での事例拡大に取り組み、より実践的な目線から有用な事例を深掘りする</div>											
	官民連携促進	<div>「実践ガイド」を活用した自治体とスタートアップの連携事例創出</div>											

3. 座長・副座長・アドバイザー ディスカッションメンバーのご紹介

座長・副座長・ディスカッションメンバーのご紹介

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長：一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 代表理事 今田 克司
- 副座長：みずほ証券株式会社 サステナビリティ推進部長 末吉 光太郎
- ディスカッションメンバー（12名）
 - ・ 明治安田生命 青木 圭介
 - ・ C S Rデザイン環境投資顧問 大下 剛
 - ・ 野村證券 太田 洋子
 - ・ 農林中央金庫 岡本 純宜
 - ・ 日本P M I パートナース 川本 めぐみ
 - ・ ジェネシア・ベンチャーズ 公山 倫子
 - ・ 日清食品ホールディングス 斉藤 圭
 - ・ アサヒグループホールディングス 西原 香織
 - ・ 全国共済農業協同組合連合会 東 志行
 - ・ N T Tファシリティーズ 豆田 晃一
 - ・ A N Aホールディングス 南 尚樹
 - ・ 環境エネルギー投資 森江 久美子

4. 第3期分科会の進め方

分科会座長 今田 克司氏

- 第1期では、インパクト創出・拡大に向けては、インパクト指標・ベースライン値・活用事例等が必要であるとの認識から、各場面に応じた、**各種の代表的なデータベース情報を集約・整理**して提示。あわせて、企業・投資家等の**関心が高い課題分野を特定したうえで（インフラ、環境、ヘルスケア）**、今後、整備が求められる**データベースにおける基本的な考え方を整理**
- 第2期では、「望ましいデータベースの基本的な考え方」に沿って、**インパクト・データベースの案内板（試行版）の実装・展開**を行うとともに、**重点3分野の「インパクト指標集」を策定するとともに、活用の際に参考となる「事例集」を整備**することにより、インパクト創出の実践を下支えするとともに、将来的なインパクト目標・指標の検討時における基盤を提示

データ・指標を活用する主な場面を踏まえた既存データベースの整理

企業・投資家等の関心が高い課題分野の特定

計画 → 実践 → 測定・評価 → 報告・活用・検証

環境・エネルギー ヘルスケア・健康 インフラ・不動産

場面1 インパクト目標の特定 **場面2** 指標とベースライン値特定 **場面3** アウトカムとベースライン値の比較

各種の代表的なデータベース情報を集約

19の指標例・ガイダンス等

22の統計・調査結果等

望ましいデータベースの基本的な考え方（コンセプト）

1 「インパクトデータベースの案内板」としての役割

2 代表的な指標・ベースライン値・活用事例の整理

観点

日本の課題としての重要性
国際的な整合性
企業価値との関係性

具体化

インパクト・データベース案内板（試行版）の実装

具体化

データ・指標イメージ（指標集）の検討

実装

各種指標・統計・調査結果

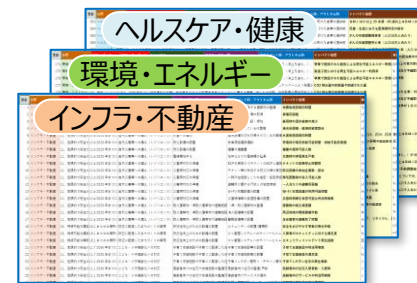
関係省庁発行のインパクト創出・投資に関する情報

インフラ・不動産

ヘルスケア・健康

インパクト指標集

DM事例集



2024（第1期）

2025（第2期）

概要

- 国内外の先行研究等と連携しながら、投資事例等の共有・分析等を行い、中長期的な課題解決・事業性実現等に有効なインパクト指標の設定のあり方、投資実施時のデータの収集・推計方法、社会課題を示すマクロデータのあり方など、データ・指標の項目と着眼点、収集方法等について、議論を行う。
- 第１・２期の議論・整理をふまえて、インパクト特定・測定・管理プロセスのうち、事業者のインパクト創出を意図した事業計画策定プロセスへの支援として、インパクト指標集の充実やインパクト・パスウェイ（ロジックモデル）の構築に資する実証事業、及び、インパクトの可視化と経済的価値の関連性に係る議論を進める方向

メンバー

※敬称略・五十音順

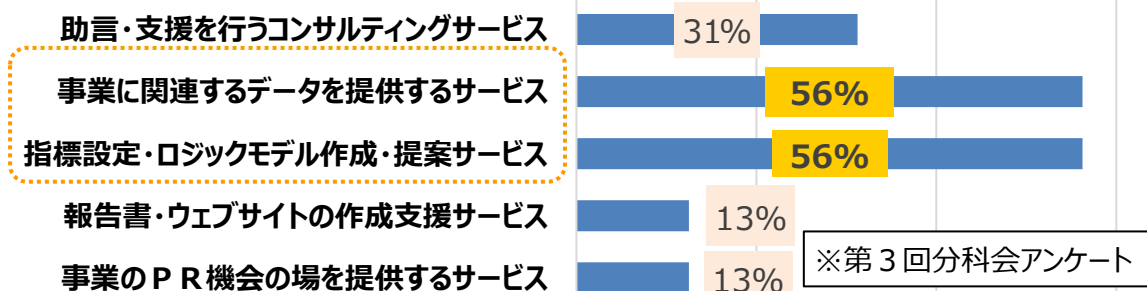
- 座 長：一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 代表理事 今田 克司
- 副座長：みずほ証券株式会社 サステナビリティ推進部長 末吉 光太郎
- ディスカッションメンバー（12名）
 - ・ 明治安田生命 青木 圭介
 - ・ C S Rデザイン環境投資顧問 大下 剛
 - ・ 野村證券 太田 洋子
 - ・ 農林中央金庫 岡本 純宜
 - ・ 日本P M I パートナース 川本 めぐみ
 - ・ ジェネシア・ベンチャーズ 公山 倫子
 - ・ 日清食品ホールディングス 斉藤 圭
 - ・ アサヒグループホールディングス 西原 香織
 - ・ 全国共済農業協同組合連合会 東 志行
 - ・ N T Tファシリティーズ 豆田 晃一
 - ・ A N Aホールディングス 南 尚樹
 - ・ 環境エネルギー投資 森江 久美子

- 分科会における議論のレベル感に対して、ESG業務に従事して1年未満の会員は「（とても）難しい」とする意見が66.7%に上っており、**インパクト創出のすそ野拡大に向けて、幅広い層が受容しうる議論の進行が必要**。また、事業者・投資家の多くは、データ提供・ロジックモデル作成等のPDCAにおける初期部分における作業に対しての支援を求めている状況
- これらを鑑みて、第3期ではインパクト特定・測定・管理プロセスのうち、事業者の計画段階に対するプロセスへの支援として、**インパクト指標集の充実**や**インパクト・パスウェイ（ロジックモデル）の構築**に資する議論・実証事業を進める方向

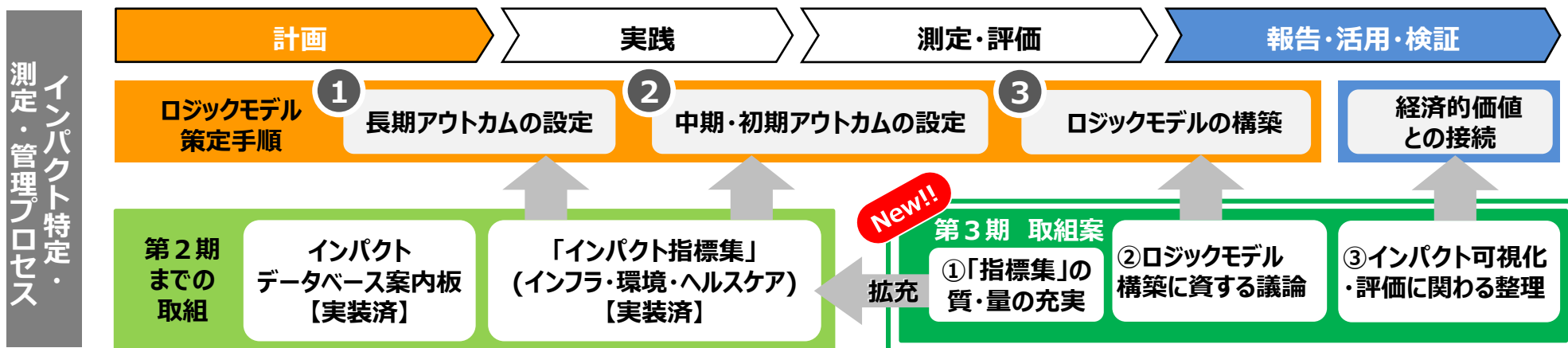
分科会における議論のレベル感

分科会の議論のレベル感 ※第2回分科会アンケート	とても簡単 ～簡単	適切	難しい～ とても難しい
会員回答	10.5%	68.4%	21.1%
うちESG従事1年未満	-	33.3%	66.7%

IMMの実践において望まれる外部サービス



第3期分科会において議論・整理したい分野



活動と成果のイメージ

1

インパクト指標集 の質・量の充実

- より多くの事業者・投資家によるインパクト創出・投資に寄与するべく、第2期に提示したインパクト指標集【インフラ・不動産、環境・エネルギー、ヘルスケア・健康】における、収集分野・項目数の拡充や、利用に関するユーザビリティの向上を行う

2

ロジックモデル策定を支援 するための議論・整理、 及び、有効な手法の検討

- インパクト創出の担い手となる事業者・投資家のすそ野を拡大するとともに、IMMの初期プロセスで困難を感じる事業者へのサポートを行うべく、ロジックモデルの策定に資する実証事業を行うとともに、先行事業者によるIMMの考え方に関わる議論・整理や、モデル構築に関わる有効な手法を検討する

3

インパクトの可視化と 経済的価値の関連性 に係る議論・整理

- 創出されたインパクトの可視化・評価を通じて、インパクトの創出がどのようにして経済的価値を向上させるドライバーとして位置付けることができるかに関するアプローチ・方法論について議論・整理

- 開催形式は原則オンライン、1回につき2時間程度で、2027年3月までに4回程度の開催を予定（変更の可能性あり）
- 別途、分科会と異なる形式で、新しい分野における先行事業者をプレゼンターとする会も予定

データ・指標分科会 今年度の取り組み（5/8）①インパクト指標集の質・量の充実

- 第2期に提示したインパクト指標集【インフラ・不動産、環境・エネルギー、ヘルスケア・健康】の継続的な事例収集、項目数の拡充、ユーザビリティの向上に向けた対応を検討
- 第2期に行ったアンケート（右下図）等を参考として、指標集の新規分野への拡大に向けた議論も実施

インパクト指標集の質・量の充実

インパクト指標集の取りまとめにおいては、以下の3つの観点から実施してきた経緯

①国際的な整合性

②日本の課題としての重要性

③企業価値との関係性



③インパクトの可視化と経済的価値の関連性に係る議論・整理（次々スライド）

インパクト指標集の質の充実

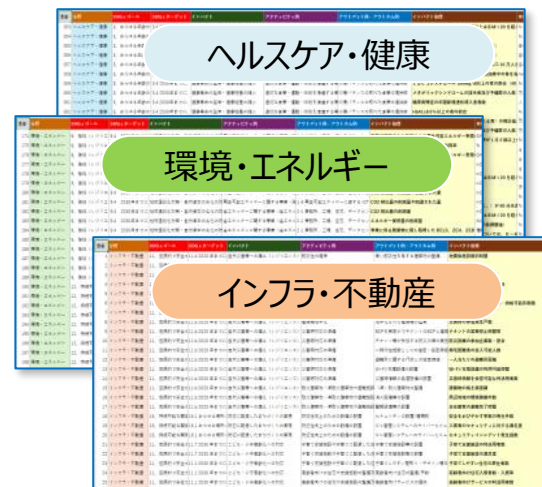
インパクト指標集の量の充実

国際的なインパクト指標との関連

IRIS+（アイリスプラス）

各分野において国際団体が定める指標・フレームワーク等

3分野における継続的な事例収集



0% 20% 40% 60% 80%

人材・働き方

64%

食料・農業

48%

中小企業支援

32%

教育・子育て

28%

すべての人の権利保障

20%

女性活躍推進

20%

その他

4%

既存指標集の充実に向けた対応を検討

3分野以外の分野の指標の検討

【参考】重点3分野以外の分野へのインパクト指標集の拡張①

- 重点3分野【インフラ・不動産、環境・エネルギー、ヘルスケア・健康】に次ぐ指標の検討・議論の分野として、アンケートにおいて興味・関心があるとされた「人材・働き方」を検討
- 本分野の検討は、「人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる」『人的資本経営』（※）と、当分科会が取り扱うI M Mにおけるロジックモデル策定の研究との親和性の面でも有意義
（※） 人的資本経営 https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinteki_shihon/index.html

人材・人的指標に関わるロジックモデル【イメージ】

アクティビティ

アウトカム・インパクト

人材・
人的
資本

組織活性化策の制定

研修制度の充実

労働環境の整備

禁煙等への補助

女性登用策の制定

通報制度の整備

:

【エンゲージメントの向上】

－エンゲージメント調査回答率
－エンゲージメントスコア

【健康経営の推進】

－定期健診・がん検診受診率
－メタボ該当率・喫煙率

【人材育成・成長支援】

－経営人材候補者数
－専門分野人材の登録数

【DEI・多様性ある組織の構築】

－女性・外国人管理職比率
－男女賃金差異

【ウェルビーイングの向上】

－年休取得平均日数
－平均給与の前年度増減率

【コンプライアンス・安全の徹底】

－労働災害件数・度数率
－ハラスメント認定件数

社会的
価値の
創出

経済的
価値の
向上

【参考】重点3分野以外の分野へのインパクト指標集の拡張②

- 重点3分野では官公庁による公表物を参考に編纂していたが、現状、インパクト指標の収集に資する「人材・働き方」に関わる公表資料が少ないことから、有価証券報告書や一部企業が発行する人財（人的資本）レポートを参考にすることも視野

インパクト指標の収集

【第2期】重点3分野におけるインパクト指標の収集

【第3期】人材分野におけるインパクト指標の収集

各種指標・統計・調査結果

関係省庁発行のインパクト創出・投資に関する情報

ヘルスケア・健康

環境・エネルギー

インフラ・不動産

環境・エネルギー

ヘルスケア・健康

分科会

人材分野に係る議論

人的資本レポート

有価証券報告書

第3期にて整理予定

次期以降整理予定

人材

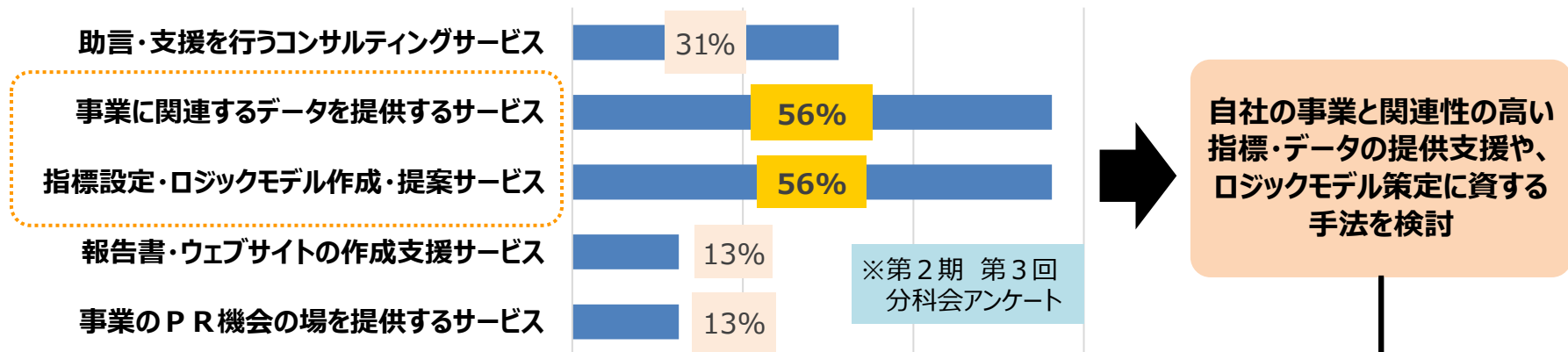
人材分野におけるインパクトについての考え方

データ・指標分科会 今年度の取り組み（6 / 8）②ロジックモデル策定を支援する手法の検討

- 第2期に引き続き、IMMの考え方や先行事例に基づき、議論を行い、IMMを実践する上での主要なポイントを整理
- あわせて、事業内容とインパクト指標集のデータ・指標を結びつけるロジックモデルの策定ツールの導入を通じて、IMMの初期プロセスで困難を感じる事業者を始めとする各関係者によるロジックモデルの策定に資する実証事業を実施

ロジックモデル策定を支援する手法の検討

【IMMの実践において望まれる外部サービス】



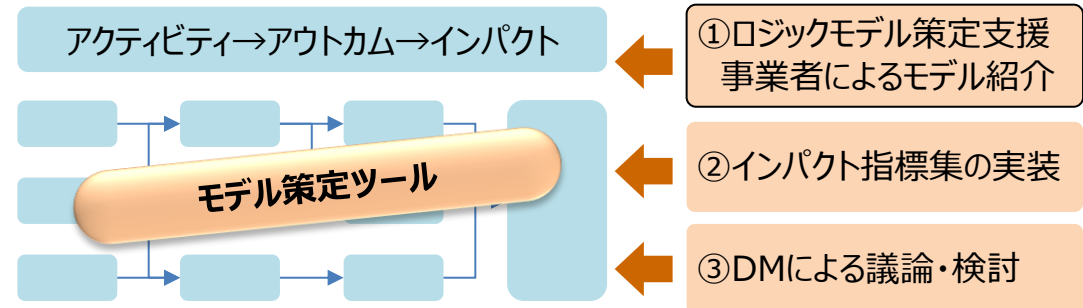
先行事業者によるIMMに係る議論



【参考】第2期DM事例集



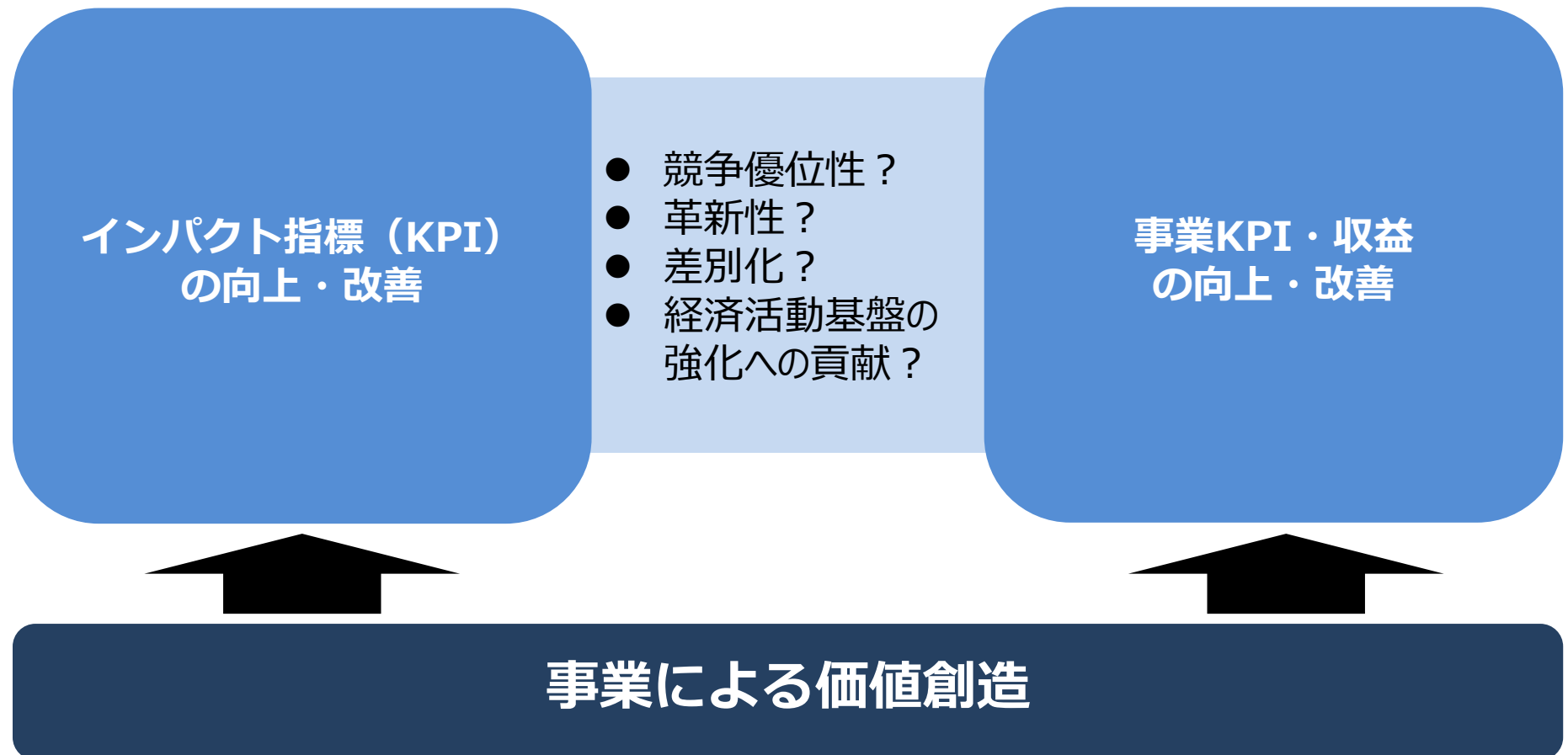
ロジックモデル策定ツールに関わる実証事業



データ・指標分科会 今年度の取り組み（7/8）③インパクトの可視化と経済的価値の関連性

- 創出されたインパクトの評価・可視化を通じて、どのようにして経済的価値を向上させるドライバーとして位置付けることができるかに関して、インパクトの評価・可視化等の手法について整理・公表している事業者における事例紹介をもとに議論
- 必要に応じて、他分科会との連携・合同開催等により、インパクト創出と企業価値創造に向けた企業経営戦略・ガバナンス等に組み込むこと等について議論の深掘りも実施

インパクトの可視化と経済的価値の関連性



データ・指標分科会 今年度の取り組み（8 / 8）データ・指標分科会 スケジュール（案）

スケジュール（案）

- 分科会は年間 4 回を計画（下表記載のプレゼン企業は未定）
- 市場調査・形成分科会との合同分科会を、インパクトの可視化と経済的価値の関連性をテーマとして、第 3 回開催後に予定。

2026					2027			
9	10	11	12		1～	2～3	～	6
	2 日	未定	未定		未定	未定	未定	
運営委員会					報告			
データ・指標分科会					キックオフ			
第 1 回 10月 2 日					第 2 回 10月下旬～11月中旬			
<ul style="list-style-type: none"> ●イントロダクション 第 3 期の方針 DM 紹介 ●プレゼン 3 社 【人材・働き方】 日清食品HD ANAホールディングス 【食料・農業】 農林中央金庫 					<ul style="list-style-type: none"> ●ロジックモデル実証事業 選定事業者による説明 ●プレゼン 3 社 【人材・働き方】 【食料・農業】 【投資家・金融機関】 			
第 3 回 12月中旬～12月下旬					合同分科会第 1 回 2027年 1 月			
<ul style="list-style-type: none"> ●プレゼン 4 社 【投資家・金融機関】 【不動産】 【ヘルスケア】 【環境】 					<ul style="list-style-type: none"> ●インパクト評価・可視化 <p>データ・指標分科会及び 市場調査・形成分科会から 各 2 DM のプレゼン予定</p>			
第 4 回 2～3月					成果物確認 パネルディス カッション 取りまとめ			
新分野 指標集の 検討開始					新分野 指標集に 関する考え方			

5. ディスカッションメンバーによる取組紹介

5－1 日清食品ホールディングス

5－2 A N Aホールディングス

5－3 農林中央金庫

6. 事務局連絡／閉会